

令和 7 年 2 月 28 日

教育長職務代理者答弁実録

（教育委員会）

（問）広島を愛する気持ちを育む教育について

単発で広島の良さを伝えるのではなく、幼少期からふるさとを思う気持ちを育む重層的な教育がこれまで以上に必要だと考えるが、現在、広島を愛する子供達を育てる教育にどのように取り組んでいるのか、教育長に伺う。

また、その効果をどのように評価しているのか、併せて、教育長職務代理者に伺う。

（答）

学校教育におきましては、郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を養うことが求められていることから、本県におきましても、各学校段階に応じて、身近な地域、広島の魅力や素晴らしさ、広島の偉人の功績などを学んでおり、若者減少対策が喫緊の課題である中、郷土愛を育む教育は、これまで以上に重要になると認識しております。

このため、小学校におきましては、例えば、社会見学で「筆の里工房」や「松永はきもの資料館」などの地域の伝統的な産業を紹介する施設を訪れ、本物に触れる体験を通して、その素晴らしさを実感したり、社会科におきまして、戦後の広島の復興に尽力した浜井信三や宇品港を建設した千田貞暁などの、身近な地域の発展に尽くした先人を調べ、様々な努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解したりしているところでございます。

中学校におきましては、小学校で学んだ内容を生かし、「総合的な学習の時間」において、地域を題材に探究的な学習を行っており、例えば、生徒が自分の暮らす地域の魅力を広く発信するため、地域の方と一緒に地元の名所を紹介するデジタルガイドを作成する活動を行うことで、地域のよさに改めて気づき、地域に貢献しようとする意欲を高めるなどしております。

高等学校におきましては、必修科目である「歴史総合」において、福山藩主の阿部正弘が関わった日米和親条約が締結された時期の国際情勢について、諸外国との関係の変容や影響に着目して考察したり、「総合的な探究の時間」などにおいて、宮島の伝統的な建造物の保存とその魅力を伝える視点から、町屋の特徴を忠実に再現した模型を製作・展示するなど、地域課題の解決策の実践を行ったりすることを通じて、地域への愛着や誇りを育てております。

こうした取組により、

- ・ 県内の公立学校の約 9 割の児童生徒が、「自分の住んでいる地域のことが好きである」、

- ・ 公立小・中学校の約８割の児童生徒が、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」

と回答しており、児童生徒が地域への愛着を持つことなどに、一定の成果があるものと考えております。

教育委員会といたしましては、引き続き、広島の魅力や素晴らしさを学び、広島を愛する態度を養う様々な活動を広く県内に普及することにより、発達段階に応じた取組を重層的に充実させ、ふるさとを思い、広島を愛する子供たちを育ててまいります。